

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月1日

上場会社名 味の素株式会社

上場取引所 東大

コード番号 2802 URL <http://www.ajinomoto.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 伊藤 雅俊

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員財務部長

(氏名) 大野 弘道

TEL 03-5250-8161

四半期報告書提出予定日 平成22年2月10日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	892,028	△3.5	59,158	75.5	62,979	207.7	37,230	—
21年3月期第3四半期	924,211	—	33,713	—	20,469	—	△4,309	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	53.34	—
21年3月期第3四半期	△6.17	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	1,116,491	661,490	55.8	892.79
21年3月期	1,057,786	618,654	55.3	838.51

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 623,069百万円 21年3月期 585,234百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	8.00	—	8.00	16.00
22年3月期	—	8.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	8.00	16.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,180,000	△0.9	66,000	61.7	68,000	162.3	15,000	—	21.49

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、6ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご参照下さい。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

(注)詳細は、6ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご参照下さい。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 700,032,654株 21年3月期 700,032,654株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 2,138,578株 21年3月期 2,083,299株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 697,921,058株 21年3月期第3四半期 698,323,660株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成21年11月6日に公表しました平成22年3月期の通期連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日発表の「平成22年3月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しております。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想に関する事項は5ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご参照下さい。

3. 本資料の発表日現在、公認会計士によるレビューは未了です。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日～平成21年12月31日）におけるわが国経済は、世界的な景気後退の影響により、企業収益が大幅に悪化し、所得の減少や雇用環境の悪化により、個人消費も低迷しました。

世界経済につきましては、アジアでは中国等の一部の国・地域の景気は持ち直しつつあるものの、米国・欧州の景気は後退し、引き続き深刻な状況となりました。

食品業界におきましても、景気後退を背景として消費者心理が冷え込むなど、引き続き厳しい状況となりました。

このような環境の下、味の素グループは、厳しさを増す経営環境を打破し、競争に打ち勝つべく、グループ全体で革新活動を推進し、需要の創造や新市場の開拓、コストダウンや企業体質の強化に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期を321億円下回る8,920億円（前年同期比96.5%）となったものの、利益面では、営業利益は前年同期を254億円上回る591億円（前年同期比175.5%）、経常利益は前年同期を425億円上回る629億円（前年同期比307.7%）、四半期純利益は372億円となりました。

セグメント別の概況

事業の種類別セグメントの業績は、次の通りです。

（国内食品事業）

国内食品事業の売上高は、前年同期を226億円下回る4,867億円（前年同期比95.6%）、営業利益は前年同期を80億円上回る244億円（前年同期比149.1%）となりました。油脂等の増収もありましたが、平成21年1月末をもってチルド乳製品の取扱いがなくなったこと等により、売上高は前年同期を下回りました。営業利益は、高騰していた原材料価格が下落したことやコストダウン等により前年同期を大幅に上回りました。

家庭用調味料・加工食品につきましては、「ほんだし®」およびうま味調味料「味の素®」の売上げは前年同期をわずかに上回り、コンソメおよび中華だし類の売上げは順調に推移しました。スープ類の売上げは前年同期を下回り、「Cook Do®」（クックドゥ）の売上げは前年同期をやや下回りましたが、マヨネーズ類の売上げは、「ピュアセレクト®マヨネーズ」が好調に推移し、前年同期を大幅に上回りました。ケログ製品類の売上げは、前年同期をわずかに下回りました。

業務用調味料・加工食品につきましては、外食市場が低迷していましたが、売上げは前年同期並みとなりました。

食品加工業向けの食感や物性を向上させる食品用酵素製剤「アクティバ®」類の売上げは、前年同期をやや上回り、天然系調味料は堅調に推移しました。

甘味料・栄養食品につきましては、家庭用・外食市場向けの低カロリー甘味料の売上げは前年同期をわずかに上回りました。アミノ酸サプリメント「アミノバイタル®」の売上げは、製品自主回収の影響により、前年同期を大幅に下回りました。

弁当・惣菜等のデリカの売上げは堅調に推移し、ベーカリー製品の売上げは、前年同期をわずかに下回りました。

冷凍食品につきましては、一昨年に起きた食の安心・安全を脅かす事件の影響による低迷から回復途中にある市況の中、家庭用は主力品の「ギョーザ」が順調に売上げを伸ばし、「やわらか若鶏から揚げ」も堅調に売上げを伸ばしたものの、「エビシューマイ」の売上げは前年同期をやや下回り、米飯類や一部の弁当用商品等の売上げが前年同期を大きく下回ったため、家庭用全体の売上げは前年同期を下回りました。業務用は、景気の減退や新型インフルエンザの影響等に伴う外食市場の低迷が大きく響き、大手需要家との取組みを行ったものの、売上げは前年同期をわずかに下回りました。

飲料につきましては、「カルピスウォーター®」等の乳性飲料の売上げが前年同期並みとなりましたが、夏場の天候不順の影響が大きく、エビアン事業での提携解消等の影響もあり、全体では前年同期の売上げを下回りました。

油脂につきましては、前年同期の売上げを大きく上回りました。

コーヒー類の売上げにつきましては、堅調に推移しました。

（海外食品事業）

海外食品事業の売上高は、前年同期を441億円上回る1,593億円（前年同期比138.3%）、営業利益は前年同期を148億円上回る240億円（前年同期比259.9%）となりました。加工用うま味調味料の事業区分をアミノ酸事業から変更したことに加え、加工用うま味調味料の売上げが好調に推移したことにより、大幅な

増収となり、営業利益は原材料価格の下落もあって、大幅な増益となりました。なお、加工用うま味調味料の事業区分を変更した結果、従来の方法と比較して、売上高が379億円増加し、営業利益が93億円増加しております。

調味料につきましては、アジアでは、為替の影響はありましたが、「味の素®」の販売が大幅に伸長し、家庭用風味調味料の販売も好調に推移し、売上げは前年同期をわずかに上回りました。米州では、為替の影響はありましたが、南米における家庭用風味調味料の販売は好調に推移し、売上げは前年同期をわずかに上回りました。欧州・アフリカでは、為替の影響はありましたが、西アフリカ諸国の家庭用「味の素®」の販売が大幅に伸長し、売上げは前年同期並みとなりました。

加工食品につきましては、アジアでは、缶コーヒー「Birdy®」（バーディ）等の飲料の販売は好調に推移し、即席麺の販売も順調に推移しましたが、為替の影響により、飲料の売上げは前年同期をわずかに上回るに止まり、即席麺の売上げについては前年同期をわずかに下回り、全体では前年同期をやや上回りました。

加工用うま味調味料につきましては、食品加工業向け「味の素®」は、全地域での値上げを実施した結果、国内の売上げは前年同期を大幅に上回りましたが、海外では為替の影響が大きく、また、販売数量が前年同期を下回ったため、各地域の売上げは前年同期を下回りました。核酸は、為替の影響を受けたものの、海外大手需要家向けを中心に値上げを推進しつつ販売数量も伸長し、売上げは前年同期を大幅に上回りました。

（アミノ酸事業）

アミノ酸事業の売上高は、前年同期を529億円下回る1,395億円（前年同期比72.5%）、営業利益は、前年同期を32億円下回る39億円（前年同期比55.2%）となりました。加工用うま味調味料の事業区分を海外食品事業に変更したことに加え、競争激化、為替の影響および需要回復の遅れ等の影響を受け、大幅な減収、減益となりました。なお、加工用うま味調味料の事業区分を変更した結果、従来の方法と比較して、売上高が379億円減少し、営業利益が94億円減少しております。

飼料用アミノ酸につきましては、リジン、スレオニンおよびトリプトファンいずれも販売数量は前年同期を上回りましたが、販売単価が大幅に下回りました。売上げは、スレオニンおよびトリプトファンは前年同期を上回ったものの、リジンが前年同期を大幅に下回り、全体としての売上げは前年同期を大幅に下回りました。

医薬用・食品用アミノ酸につきましては、国内での売上げは前年同期並みでしたが、海外では、為替の影響もあり、欧州および北米の売上げが前年同期を下回り、全体としての売上げは前年同期を下回りました。

医薬中間体につきましては、欧州での販売は前年同期を上回ったものの、基幹製品の販売が前年度をもって満了したことに加え、為替の影響もあり、前年同期並みの売上げとなりました。

甘味料につきましては、加工用甘味料の売上げは、販売数量が前年同期を下回り、為替の影響もあったため、全体として前年同期を大幅に下回りました。南米におけるアスパルテムを使用した粉末ジュース「Refresco MID®」（リフレスコ ミッド）の販売は、前年同期をやや上回りましたが、為替の影響により、前年同期の売上げを下回りました。

化成品につきましては、化粧品原料の売上げは、国内では前年同期並みとなりましたが、海外では前年同期を下回り、全体としては前年同期を下回りました。アミノ酸化粧品「Jino®」（ジーノ）の売上げは前年同期を上回りました。コンピュータ用の層間絶縁フィルムの売上げは前年同期を下回りました。

（医薬事業）

医薬事業の売上高は、前年同期を13億円下回る638億円（前年同期比97.9%）、営業利益は、前年同期をわずかに上回る100億円（前年同期比100.8%）となりました。自社販売製品の売上げは前年同期をわずかに上回りましたが、提携販売品の売上げが前年同期を下回ったことから、全体として減収となりました。営業利益は、ロイヤルティ支払額の減少や経費削減もあり、全体で増益となりました。

自社販売製品では、肝疾患用分岐鎖アミノ酸製剤「リーバクト®」および成分栄養剤「エレンタール®」の売上げが前年同期を上回りましたが、電解質輸液「ソリタ®-T」等の輸液類の売上げが前年同期を下回りました。提携販売品では、カルシウム拮抗降圧剤「アテレック®」の売上げが順調に推移しましたが、骨粗鬆症治療剤「アクトネル®」および糖尿病治療薬「ファスティック®」の売上げは前年同期を下回りました。

（その他）

その他の事業の売上高は、前年同期を6億円上回る425億円（前年同期比101.7%）、営業利益は、前年同期を13億円上回る28億円（前年同期比194.8%）となりました。

（消去又は全社）

当区分の営業利益は、主に当社の管理部門にかかる費用および一部の研究所費用、ならびに当社が採用している標準原価計算制度における原価差異のたな卸資産への配賦額の増減から構成されています。当第3四半期連結累計

期間の営業利益は、前年同期から43億円増加し62億円のマイナスとなりましたが、その増加の内訳は、原価差異のたな卸資産への配賦額の変動が主なものです。各事業セグメントで発生している原価差異は、損サイド（不利差異）となりました。「消去又は全社」で認識している当該原価差異のたな卸資産への配賦相当額は益サイド（有利差異）となりました。発生した原価差異の主なものは、前連結会計年度末の在庫評価について、当連結会計年度において標準原価を見直したことに伴う、評価替差異であります。なお、加工用うま味調味料の事業区分を変更した影響により、従来の方と比べて、営業利益が1億円増加しております。

所在地別セグメントの業績は、次の通りです。

（日本）

日本の売上高は、アミノ酸事業、国内食品事業を中心に全体として前年同期を288億円下回る6,280億円（前年同期比95.6%）、営業利益は前年同期を37億円上回る308億円（前年同期比113.8%）となりました。

（アジア）

アジアの売上高は、海外食品事業を中心に全体として前年同期を31億円上回る1,195億円（前年同期比102.7%）、営業利益は前年同期を121億円上回る225億円（前年同期比216.2%）となりました。

（米州）

米州の売上高は、アミノ酸事業、海外食品事業を中心に全体として前年同期を62億円下回る768億円（前年同期比92.5%）、営業利益は前年同期を6億円下回る47億円（前年同期比88.3%）となりました。

（欧州）

欧州の売上高は、アミノ酸事業を中心に全体として前年同期を1億円下回る676億円（前年同期比99.7%）、営業利益は前年同期を59億円上回る69億円（前年同期比713.3%）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

連結財政状況

当第3四半期末の総資産は、前期末の1兆577億円に対して587億円増加し1兆1,164億円となりました。これは主として特許・商標等の取得により無形固定資産が増加したことや、在外子会社の貸借対照表の円貨への換算額が増加したことによるものです。

有利子負債残高は、長期借入金の増加等により、前期末に比べて115億円増加し1,609億円となりました。

純資産については、利益剰余金の増加や為替換算調整勘定の変動等から、前期末に比べて428億円増加しました。純資産から少数株主持分を引いた自己資本は6,230億円となり、自己資本比率は55.8%となりました。

連結キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、663億円の収入となりました。税金等調整前四半期純利益が602億円、減価償却費が410億円であった一方、法人税等の支払額が147億円、売上債権やたな卸資産等の運転資本が支出となったこと等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産、無形固定資産の取得等により497億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、56億円の支出となりました。長期借入れによる収入が100億円であった一方、配当金の支払額111億円、長期借入金の返済による支出21億円があったこと等によるものです。

以上の結果、当第3四半期末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ120億円増加し798億円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における業績の進捗と直近の為替、原燃料価格の状況を踏まえ、通期の業績予想の見直しを行った結果、平成21年11月6日に公表しました平成22年3月期の通期連結業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日発表の「平成22年3月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、当第3四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、第2四半期連結会計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスク「(4) 法的規制の影響」を変更しております。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 簡便な会計処理

・一般債権の貸倒見積高の算定方法

当社及び主な連結子会社は、貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度決算において算定した貸倒実績率等を使用して一般債権の貸倒見積高を算定する方法を採用しております。

・固定資産の減価償却費の算定方法

当社及び主な連結子会社は、定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法を採用しております。

・繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

当社及び主な連結子会社は、繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度決算において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法を採用しております。

② 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

税金費用の計算

当社及び連結子会社は、税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる会社については、重要な加減算項目を加味し、法定実効税率を使用して計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 完成工事高及び完成工事原価の計上基準の変更

請負工事に係る収益の計上基準については、従来、請負金額1,000百万円以上かつ工期1年超の工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を第1四半期連結会計期間より適用し、第1四半期連結会計期間に着手した工事契約から、当第3四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

これによる売上高、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

② ヘッジ会計の方法の変更

従来、外貨建関係会社株式・出資金の取得に係る予定取引及び売却取引をヘッジ対象とする為替予約については、時価評価を行い、損益処理を行うこととしておりましたが、第1四半期連結会計期間よりヘッジ会計を適用し、要件を充たす取引について、繰延ヘッジ処理を行う方針であります。

これは、当社における為替変動リスクの管理方針を改訂したことに伴い、当該リスクの管理活動を財務諸表に適切に反映し、財政状態及び経営成績をより適正に表示するため、変更したものであります。

なお、当第3四半期連結累計期間においては、該当する取引がなかったため、これによる経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	82,593	69,569
受取手形及び売掛金	219,319	189,384
有価証券	27	647
商品及び製品	101,601	102,957
仕掛品	10,072	9,143
原材料及び貯蔵品	39,267	35,239
繰延税金資産	15,561	15,904
その他	28,994	30,733
貸倒引当金	△1,417	△940
流動資産合計	496,021	452,639
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	356,159	336,660
減価償却累計額及び減損損失累計額	△193,818	△183,227
建物及び構築物（純額）	162,340	153,433
機械装置及び運搬具	528,916	516,237
減価償却累計額及び減損損失累計額	△389,727	△372,031
機械装置及び運搬具（純額）	139,188	144,206
土地	100,343	100,146
建設仮勘定	11,453	22,122
その他	68,209	63,898
減価償却累計額及び減損損失累計額	△53,834	△50,840
その他（純額）	14,374	13,058
有形固定資産合計	427,700	432,966
無形固定資産		
のれん	35,356	39,121
その他	39,684	22,247
無形固定資産合計	75,040	61,369
投資その他の資産		
投資有価証券	86,300	82,485
長期貸付金	239	624
繰延税金資産	14,000	14,277
その他	17,823	14,593
貸倒引当金	△634	△1,169
投資その他の資産合計	117,728	110,811
固定資産合計	620,470	605,146
資産合計	1,116,491	1,057,786

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	112,461	95,085
短期借入金	28,723	26,706
1年内償還予定の社債	15,000	—
1年内返済予定の長期借入金	4,778	3,056
未払法人税等	8,475	8,328
賞与引当金	3,047	4,919
役員賞与引当金	239	131
その他	67,356	83,278
流動負債合計	240,083	221,506
固定負債		
社債	69,988	84,987
長期借入金	40,331	33,607
繰延税金負債	29,874	29,419
退職給付引当金	51,695	47,856
役員退職慰労引当金	1,162	1,315
債務保証損失引当金	220	—
環境対策引当金	291	216
その他	21,353	20,223
固定負債合計	214,917	217,625
負債合計	455,000	439,132
純資産の部		
株主資本		
資本金	79,863	79,863
資本剰余金	182,720	182,723
利益剰余金	415,163	389,100
自己株式	△2,418	△2,378
株主資本合計	675,328	649,308
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△1,275	△1,517
繰延ヘッジ損益	△14	220
為替換算調整勘定	△50,968	△62,777
評価・換算差額等合計	△52,259	△64,074
少数株主持分	38,420	33,419
純資産合計	661,490	618,654
負債純資産合計	1,116,491	1,057,786

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	924,211	892,028
売上原価	649,061	594,438
売上総利益	275,149	297,590
販売費及び一般管理費	241,435	238,431
営業利益	33,713	59,158
営業外収益		
受取利息	888	730
受取配当金	846	896
持分法による投資利益	2,886	3,173
為替差益	—	2,598
デリバティブ評価益	1,698	—
その他	1,809	2,162
営業外収益合計	8,129	9,562
営業外費用		
支払利息	3,609	2,705
為替差損	14,747	—
その他	3,016	3,035
営業外費用合計	21,373	5,740
経常利益	20,469	62,979
特別利益		
過年度損益修正益	1,203	1,069
固定資産売却益	612	—
契約変更による未払費用取崩益	—	1,437
その他	1,115	590
特別利益合計	2,931	3,097
特別損失		
固定資産除却損	1,057	2,448
減損損失	13,495	—
その他	2,317	3,396
特別損失合計	16,870	5,844
税金等調整前四半期純利益	6,530	60,232
法人税等	8,808	17,994
少数株主利益	2,031	5,007
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△4,309	37,230

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,530	60,232
減価償却費	41,338	41,066
減損損失	13,495	—
のれん償却額	4,246	3,749
引当金の増減額(△は減少)	△2,015	2,354
受取利息及び受取配当金	△1,734	△1,626
支払利息	3,609	2,705
持分法による投資損益(△は益)	△2,886	△3,173
固定資産除売却損益(△は益)	495	2,601
売上債権の増減額(△は増加)	△30,861	△28,062
仕入債務の増減額(△は減少)	13,759	17,461
たな卸資産の増減額(△は増加)	△23,077	△1,355
その他の流動負債の増減額(△は減少)	—	△10,994
契約変更による未払費用取崩益	—	△1,437
その他	8,590	△2,330
小計	31,490	81,188
利息及び配当金の受取額	2,978	2,706
利息の支払額	△3,806	△2,735
法人税等の支払額	△11,389	△14,764
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,273	66,396
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△42,175	△28,669
有形固定資産の売却による収入	728	412
無形固定資産の取得による支出	△2,071	△21,682
その他	△1,376	217
投資活動によるキャッシュ・フロー	△44,894	△49,721
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	15,825	1,332
コマーシャル・ペーパーの増減額(△は減少)	△5,000	—
長期借入れによる収入	3,227	10,010
長期借入金の返済による支出	△2,160	△2,197
社債の発行による収入	34,986	—
社債の償還による支出	△20,000	—
配当金の支払額	△11,138	△11,110
自己株式の取得による支出	△1,086	△49
自己株式の売却による収入	444	5
その他	△628	△3,611
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,470	△5,620
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5,331	971
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△16,482	12,026
現金及び現金同等物の期首残高	83,164	67,790
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	358	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	67,039	79,817

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

	国内食品 (百万円)	海外食品 (百万円)	アミノ酸 (百万円)	医 薬 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全 社 (百万円)	連 結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する 売上高	509,402	115,226	192,531	65,231	41,819	924,211	—	924,211
(2) セグメント間の 内部売上高	6,111	1,580	16,618	110	40,817	65,238	(65,238)	—
計	515,513	116,807	209,149	65,342	82,636	989,449	(65,238)	924,211
営業費用	499,119	107,542	201,985	55,369	81,181	945,197	(54,700)	890,497
営業利益	16,394	9,264	7,164	9,973	1,455	44,251	(10,537)	33,713

(注) 1. 事業区分は、社内カンパニー制における事業運営体制に基づいております。

(注) 2. 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
国内食品	「味の素」、「ほんだし」、「Cook Do」、スープ類、マヨネーズ類、「パルスイート」、弁当・惣菜、ベーカリー製品、「アミノバイタル」、冷凍食品、油脂、コーヒー類、飲料、チルド乳製品類等
海外食品	「味の素」、風味調味料、即席麺、飲料等
アミノ酸	食品加工業向け「味の素」、核酸系調味料、飼料用アミノ酸、医薬用・食品用アミノ酸、医薬中間体、アスパルテーム、化成品等
医薬	医薬品、医療食品
その他	物流、各種サービス他

(注) 3. 当第3四半期連結累計期間における営業費用のうち消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は10,672百万円であり、その主なものは、当社の管理部門にかかる費用及び一部の研究所費用です。

(注) 4. 重要な資産の評価基準及び評価方法の変更

通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として総平均法による低価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間における「国内食品」の営業費用が176百万円、「アミノ酸」の営業費用が1百万円、「医薬」の営業費用が58百万円、「消去又は全社」の営業費用が682百万円増加しております。また営業利益は「国内食品」で176百万円、「アミノ酸」で1百万円、「医薬」で58百万円、「消去又は全社」で682百万円減少しております。

(注) 5. 「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用

第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号 平成18年5月17日）を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。

これにより、当第3四半期連結累計期間における「国内食品」の営業費用が0百万円、「海外食品」の営業費用が42百万円増加し、「アミノ酸」の営業費用が80百万円減少しております。また、営業利益は「国内食品」で0百万円、「海外食品」で42百万円減少し、「アミノ酸」で80百万円増加しております。

(注) 6. 有形固定資産の耐用年数の変更

平成20年度の法人税法の改正を契機とした見直しを行い、当社及び主な国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間より固定資産の耐用年数の見積りの変更を実施しました。

これにより、当第3四半期連結累計期間における「国内食品」の営業費用が782百万円、「海外食品」の営業費用が0百万円、「アミノ酸」の営業費用が218百万円、「医薬」の営業費用が88百万円、「消去又は全社」の営業費用が0百万円減少し、「その他」の営業費用が0百万円増加しております。また、営業利益は

「国内食品」で782百万円、「海外食品」で0百万円、「アミノ酸」で218百万円、「医薬」で88百万円、「消去又は全社」で0百万円増加し、「その他」で0百万円減少しております。

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

	国内食品 (百万円)	海外食品 (百万円)	アミノ酸 (百万円)	医 薬 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連 結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する 売上高	486,767	159,336	139,540	63,869	42,515	892,028	—	892,028
(2) セグメント間の 内部売上高	4,871	5,736	11,990	151	41,797	64,547	(64,547)	—
計	491,639	165,072	151,530	64,020	84,312	956,576	(64,547)	892,028
営業費用	467,188	140,994	147,574	53,969	81,477	891,205	(58,334)	832,870
営業利益	24,451	24,077	3,955	10,051	2,834	65,371	(6,213)	59,158

(注) 1. 事業区分は、社内カンパニー制における事業運営体制に基づいております。

(注) 2. 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
国内食品	「味の素®」、「ほんだし®」、「Cook Do®」、スープ類、マヨネーズ類、「パルス イト®」、弁当・惣菜、ベーカリー製品、「アミノバイタル®」、冷凍食品、飲料、油脂、 コーヒー類等
海外食品	「味の素®」、風味調味料、即席麺、飲料、食品加工業向け「味の素®」、核酸系調味料等
アミノ酸	飼料用アミノ酸、医薬用・食品用アミノ酸、医薬中間体、アスパルテーム、化成品等
医薬	医薬品、医療食品
その他	物流、各種サービス他

(注) 3. 当第3四半期連結累計期間における営業費用のうち消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は6,547百万円であり、その主なものは、当社の管理部門にかかる費用及び一部の研究所費用です。

(注) 4. 各事業区分に属する製品の変更

当社は組織の見直しを行い、これに伴い、第1四半期連結会計期間より、「アミノ酸」に含めていた加工用うま味調味料を「海外食品」に変更しました。

これにより、当第3四半期連結累計期間における「海外食品」の売上高が42,182百万円（うち外部顧客に対する売上高は37,937百万円）、「消去又は全社」の売上高が4,114百万円（うち外部顧客に対する売上高に与える影響はありません）、それぞれ増加し、「アミノ酸」の売上高が46,296百万円（うち外部顧客に対する売上高は37,937百万円）減少しております。また、「海外食品」の営業費用が32,847百万円、「消去又は全社」の営業費用が3,981百万円、それぞれ増加し、「アミノ酸」の営業費用が36,829百万円減少しております。その結果、「海外食品」の営業利益が9,334百万円、「消去又は全社」の営業利益が133百万円、それぞれ増加し、「アミノ酸」の営業利益が9,467百万円減少しております。

b. 所在地別セグメント情報

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	米州 (百万円)	欧州 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	656,963	116,386	83,052	67,808	924,211	—	924,211
(2) セグメント間の内部売上高	27,641	20,930	16,658	3,803	69,034	(69,034)	—
計	684,605	137,317	99,710	71,612	993,245	(69,034)	924,211
営業費用	657,485	126,869	94,379	70,640	949,373	(58,876)	890,497
営業利益	27,119	10,448	5,331	972	43,871	(10,157)	33,713

(注) 1. 国又は地域区分は、地理的近接度により区分しております。

(注) 2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

アジア：東アジア及び東南アジア諸国

米州：北米及び南米諸国

欧州：ヨーロッパ及びアフリカ諸国

(注) 3. 当第3四半期連結累計期間における営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は10,672百万円であり、その主なものは、当社の管理部門にかかる費用及び一部の研究所費用です。

(注) 4. 重要な資産の評価基準及び評価方法の変更

通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として総平均法による低価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間における「日本」の営業費用が235百万円、「消去又は全社」の営業費用が682百万円増加しております。また、営業利益は「日本」で235百万円、「消去又は全社」で682百万円減少しております。

(注) 5. 「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用

第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号 平成18年5月17日）を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。

これにより、当第3四半期連結累計期間における「アジア」の営業費用が51百万円、「米州」の営業費用が30百万円増加し、「欧州」の営業費用が119百万円減少しております。また、営業利益は「アジア」で51百万円、「米州」で30百万円減少し、「欧州」で119百万円増加しております。

(注) 6. 営業費用の配分方法の変更

従来、当社の管理部門にかかる費用及び一部の研究所費用等は「日本」の項目に含めておりましたが、管理方法を変更したことに伴い、第1四半期連結会計期間より「消去又は全社」に含めております。

これにより、当第3四半期連結累計期間における「日本」の営業費用が10,706百万円減少し、「消去又は全社」の営業費用が10,706百万円増加しております。また、営業利益は「日本」で10,706百万円増加し、「消去又は全社」で10,706百万円減少しております。

(注) 7. 有形固定資産の耐用年数の変更

平成20年度の法人税法の改正を契機とした見直しを行い、当社及び主な国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間より固定資産の耐用年数の見積りの変更を実施しました。

これにより、当第3四半期連結累計期間における「日本」の営業費用が1,089百万円、「消去又は全社」の営業費用が0百万円減少しております。また、営業利益は「日本」で1,089百万円、「消去又は全社」で0百万円増加しております。

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	米州 (百万円)	欧州 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	628,076	119,515	76,816	67,619	892,028	—	892,028
(2) セグメント間の内部売上高	24,789	18,079	15,953	2,469	61,291	(61,291)	—
計	652,866	137,594	92,770	70,089	953,320	(61,291)	892,028
営業費用	622,008	115,002	88,063	63,156	888,230	(55,359)	832,870
営業利益	30,857	22,592	4,707	6,933	65,090	(5,932)	59,158

(注) 1. 国又は地域区分は、地理的近接度により区分しております。

(注) 2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

アジア：東アジア及び東南アジア諸国

米州：北米及び南米諸国

欧州：ヨーロッパ及びアフリカ諸国

(注) 3. 当第3四半期連結累計期間における営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は6,547百万円であり、その主なものは、当社の管理部門にかかる費用及び一部の研究所費用です。

c. 海外売上高

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

	アジア	米州	欧州	計
I. 海外売上高 (百万円)	131,057	85,899	71,709	288,667
II. 連結売上高 (百万円)	—	—	—	924,211
III. 連結売上高に占める海外売上高の割合 (%)	14.2	9.3	7.8	31.2

(注) 1. 国又は地域区分は、地理的近接度により区分しております。

(注) 2. 各区分に属する主な国又は地域

アジア：東アジア及び東南アジア諸国

米州：北米及び南米諸国

欧州：ヨーロッパ及びアフリカ諸国

(注) 3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

	アジア	米州	欧州	計
I. 海外売上高 (百万円)	133,417	81,357	65,149	279,924
II. 連結売上高 (百万円)	—	—	—	892,028
III. 連結売上高に占める海外売上高の割合 (%)	15.0	9.1	7.3	31.4

(注) 1. 国又は地域区分は、地理的近接度により区分しております。

(注) 2. 各区分に属する主な国又は地域

アジア：東アジア及び東南アジア諸国

米州：北米及び南米諸国

欧州：ヨーロッパ及びアフリカ諸国

(注) 3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。